

## 2006 年紀伊半島東部構造探査 I

## 2006 Seismic Expedition in Kii Peninsula, SW Japan

# 2006 年紀伊半島東部構造探査グループ 岩崎 貴哉 [1]

# Iwasaki Takaya Research Group of 2006 Kii Seismic Expedition[1]

[1] -

[1] -

2006年11月6日に紀伊半島東部で屈折・広角反射法地震探査が行われた。この探査は、文部科学省による“ 東南海・南海地震等海溝型地震に関する調査研究 ”の一環であり、同調査計画で海洋研究開発機構が実施した1944年東南海地震震源域及びその周辺海域における構造調査測線の陸域延長部にあたる。この海陸合同調査は、単にフィリピン海プレートの構造や形状を得るにとどまらず、東南海地震破壊域とその周辺域の構造的な差異の解明をめざすものである。

陸域測線は、三重県度会郡度会町から滋賀県甲賀市に至る紀伊半島東部を北西-南東方向に切るもので、全長87.8kmである。この測線上の5カ所にダイナマイトの発震点を設定した。その位置と薬量は、以下の通りである。

- SP1 滋賀県甲賀市信楽町 400kg
- SP2 三重県伊賀市鍛冶屋 100kg
- SP3 三重県津市美杉町 200kg
- SP4 三重県松阪市飯南町 100kg
- SP5 三重県度会郡度会町 400kg

一方観測点は、519点設置され、平均間隔が170mという高密度となった。地震計は、固有周期2.2Hzと4.5Hzのものが使用され、すべてoffline digital recording system(LS8000, LS8200:白山工業社製)で記録された。データは東京大学地震研究所で処理され、すべてを統合したSEG-Y方式の波形データが作成された。

得られた記録は、概ね良好で、明瞭な初動とともに、多くの後続波が確認できる。特に南側のショット点(SP3-5)については、往復走時で12sec, 10sec及び8secに複数の強い反射面が見られる。これが同じ面であるとすれば、北西傾斜であり沈み込むフィリピン海プレートとの関係が注目されることである。